

邦人医師ら襲われる

ゴマ 自衛隊が出動、保護

難民が車強奪



襲われた時の様子を語る
鎌田医師（小沢勝撮影）

【ゴマ（ザイル東部）
3日＝小沢勝】三日前午前八
時五十分（日本時間同日午
後三時五十分）ごろ、ゴマ

市中心部から二十キロ北のキ
ブンバ・ルワンダ難民キャ
ンプ近くで、車二台に分乗
してキャンプ内の難民診療

所に向かっていたNGO
（民間活動団体）「アジア
医師連絡協議会」（AMD
A、本部・岡山市）職員
の鎌田裕十郎（やすじゅうろ
う）医師三〇（茨城県江戸
崎町出身）ら日本人三人と
現地スタッフら数人を乗せ
た小型トラックが、ルワン
ダ難民と見られる男約二十
人に襲われ、全員が車外に
引きずり出されて、車を強
奪された。

で、けが人はなかったが、
医師らの要請で小銃で武装
した自衛隊員二十二人がト
ラック三台と救急車一台で
出動。鎌田医師らは、自衛
隊車両とともに市内にもど
った。
NGOの保護要請で自衛
隊が出動したのは、これが
初めて。
襲われたのは鎌田医師の
ほかに小林直樹看護士（三〇）
（群馬県高岡町出身）、平
野恭助職員（三〇）（岡山県里

庄町出身）。鎌田医師らに
よると、難民らは取り囲ん
だ車を揺すりながら「外に
出る」「この車はおれたち
がルワンダで使っていたも
のだからと脅したという。
道に置き去りにされた鎌田

医師らは、近くの国連難民
高等弁務官事務所（UNH
CR）現地事務所に逃げ込
み、さらに通りかかった赤
十字の車に乗せてもらい、
近くで防疫活動中の自衛隊
員に保護を求めた。

襲撃当時、別の車に乗っ
て診療所に向かっていた日
本人看護婦らもいたが、難
民を逃れて無事に診療所にな
どり着き、鎌田医師らを連
れた自衛隊車両とともに市
内に戻った。

診療活動続ける

AMD A 一部スタッフは移動
代表会見

アジア医師連絡協議会
（AMD A）の岡山市の本
部では、菅波茂代表が四日
午後、記者会見し、十日を
めどに日本人スタッフらを
ゴマ市の南約百六十キロにあ
る比較的治安の良いプカブ
市へ移動させることを明らか
にした。

同日正午までに計四回の電
話があり、スタッフ全員の
無事が確認された。襲撃の
原因は、現地で借りた小型
トラックがもともルワン
ダ難民のものだったため、
若者らが取り戻そうとした
らしい。

恨みによる犯行ではない
とみられるため、鎌田医
師らは引き続き難民キャ
ンプで診療活動が続けら
れる。
しかし、夜間に発砲音が
聞こえるなどゴマ市周辺の
治安は悪化しており、とり
あえず鎌田医師以外のスタ
ッフがプカブに移動。鎌田
医師はしばらくの間、ゴマ

にとどまり、現地の医師と
の引き継ぎ業務などにあた
るといふ。
菅波代表は、陸上自衛隊
ルワンダ難民救援隊に保護
を要請したことについては
「医師らの命を守るのが私
たちの最も重要な役目。今
後も救援を依頼することは
ある」と話した。